

クロマグロ小型魚の漁獲抑制対策に向けた研究会議に参加

太平洋クロマグロについては、資源管理のため、国内のクロマグロ小型魚（体重 30 kg 未満）の漁獲量を半減させることが求められています。しかし、特定の魚種を逃がすことが難しい定置網漁では、クロマグロ小型魚の漁獲を回避するために、地域の特性に応じて漁具を改良する等の対策を行う必要があります。

9 月 29 日に東京海洋大学において、同大学、国立研究開発法人、定置網漁業者などによる研究推進会議が開催され、当センターもオブザーバーとして参加しました。会議では、現在、東北地域で行われている水中カメラや超音波発信器を使った定置網内のクロマグロの行動解析などについて報告があり、出席者の活発な意見交換が行われました。これら最新の知見も参考に、今後、京都府の定置網に適した漁具改良などの技術開発を進めていきます。



定置網に逃避口を設けてクロマグロ小型魚を網外へ放流
(青森県で試験されている漁獲抑制対策の一例)